

# Ohmi Net

No. 36  
7・8月号

## おみネット



BIWA CHAN

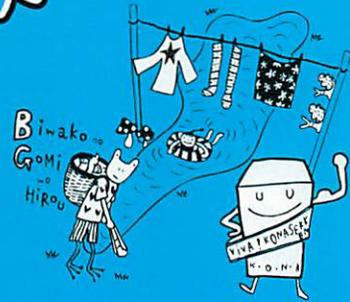


### Q1.水を汚さないために どんなことを心掛けていますか? 県民183人巻頭アンケート結果

- 汚い水を流さないようにしている。
- 料理に使う油はできるだけ排水口に流さない。
- お風呂に入浴剤はつかわない。
- お風呂の残り湯を使って洗濯している。
- 食器を洗う前に必ずキッチンペーパーで汚れを拭き取る。
- できるだけいい洗剤で洗っている!琵琶湖のゴミを拾うなどしています。
- 粉せっけんは当たり前やから、南郷水産センターで鯉を買ってきて近くの山の防災のダムに放流して水の大切さと命の育みを子供達に教えています。
- 家庭用排水には油は流さない。せっけんは無リンを使用。
- ラーメンの汁を排水口に流さない。油気のものも流さない。合成洗剤をできるだけ使わない。
- 琵琶湖清掃。節水。ギルのノンリリース。
- 食器洗いや洗濯で使う洗剤の量を控え目している。排水口から生ごみや髪の毛が流れ出さないよう、水切りネットなどを使っている。
- お米のとき水は植木にやる。
- おみそ汁は最後まで残さず飲む。
- 車の洗車は、できるだけ洗剤を使わずに洗っている。
- ごみは持ち帰る。
- ゴミのポイ捨てをしない。
- 必要以上に水を使わない。
- ゴミのポイ捨てをしない、なるべく無農薬・無添加の食べ物を買うようにしている。
- これと言ってあまりないですがトイレに節水管というのを設置して余分な水は使わないようにしています。
- フライパンの油をふいてから洗うようにしています。
- 油を再利用。
- ラーメンのつゆは飲み干す。
- 空き缶、空き瓶等のほい捨ては、絶対にしない。
- 粗大ゴミ、いらなくなった家電などは、指定の業者に引き取ってもらう。
- なるべく水を使わない!
- 家では粉せっけんを使って、お風呂のお湯は洗濯に使っています。
- 油とかは捨てないし、台所の排水口にゴミが流れないように気をつける。
- 気を付けなければならないことは、農業排水だと思います。土地改良のは場整備で作られた排水路は、まったく浄化機能が働かず、そのまま濁水が川へ流れこみリンや窒素を含んだまま環境破壊につながっているんじゃないかな。
- 洗面所に網目のものを置いて髪などが流れないようにしている。

# 水を汚さない ため に し て い る こ と は ?

県民 183人  
巻頭アンケートVOL2



◀◀◀ 中面につづく

### 淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

人事異動、統一地方選という慌ただしさも収まり、各自治体ではやっと落ち着いて新年度事業が進む時期を迎えている。選挙は住民にとって政治に参加できる数少ない機会であるが、地方議員の選挙を見て思ったのは、選挙公約と言われる候補者の掲げる政策が住民によく見えないことだ。また日頃の議会活動も、実は住民にはよく見えていない。こうなると自ずと選挙への関心が薄れ、昨今の投票率の低下現象を引き起こし、ひいては議会活動全般への無関心を生み出す一要因になっているのではないだろうか。

地方議会はチェックアンドバランスと言われるように、一般的に首長の政策をチェックすることがその大きな機能だと考えられている節がある。議会の本会議も、議員間の議論や討論がなされるのではなく、議員からの質問に首長が答えるという形式で進められることが圧倒的に多い。しかし、こうした議会運営は住民から見てもおもしろくなく、傍聴者も少ないというのが今の地方議会の現状だ。

こうした中、各地で議会改革が進められつつあるが、これからの議会に期待したいものの一番に挙げたいのが政策立案機能である。2000年4月の地方分権一括法の施行により、自治体の条例制定権は拡充されたが、議会が条例を提案し実現するという権利をほとんど行使していないのが本当のところではないか。確かに、地方議員には国会議員のように政策秘書を抱え、政策立案のための政務調査を十分に行える状況にはないこと、あるいは議会事務局が政務調査、政策法務を担えるような仕組みになっていないということなど、制度的な欠陥もあるだろう。しかし多くの自治体では、条例に基づく政務調査費が議員に支給されているのである。この政務調査費を有効利用すれば、議員提案条例もたくさんでき、議会も活発になるのではないだろうか。

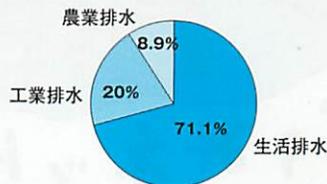
神奈川では、参加型システム研究所というNPO法人が、議員の政務調査費を活用した調査研究、講座等を行っている。一朝一夕に物事が進むわけではないが、こうした活動が議員の政務調査費の有効活用だけでなく、議員の政務調査能力や政策形成能力を高め、ひいては政策提案条例を作り出す動きにつながると言えよう。議員の中には、NPOが政策立案に関わることに疑問を持つ方がいるが、議会という機関は特権ではなく、自治の主体の一つでしかなく、その意味では、NPOも自治に関わる、あるいは自治を創造していく大きな主体の一つなのである。



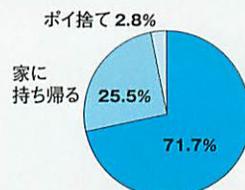
## 水を汚さないためにしていることは？ 県民183人巻頭アンケート結果

▶▶▶表紙よりつづき

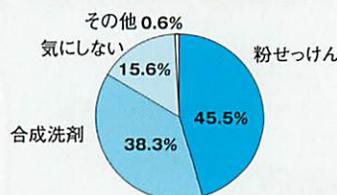
### Q2.琵琶湖や河川を一番汚しているのは何だと思いますか？



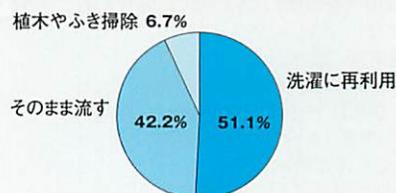
### Q3.外出先で出たゴミはどうしますか？



### Q4.洗剤は何を使っていますか？



### Q5.お風呂の残り湯はどうしますか？



アンケート：携帯情報メール発信会社「J2メール」協力  
 県民：183人（回答人数）男性：73人 女性：76人 性別不明：34人  
 10代：9人 20代：46人 30代：45人 40代：17人 50代：9人 60代：1人 不明：56人

[9月号のアンケート]  
 次回9月は高齢社会をテーマにした巻頭アンケートを実施します。読者の皆さんもぜひ、アンケートにご協力をお願いします。詳しくは「センターインフォメーション」をご覧ください。

## CONTENTS

### NPOってナニ?…①

第14回 NPOと代議制  
 阿部圭宏 (NPO市民熱人設立準備会)

### 特集・Oh!Me!Eyes…②

### KIRARI★INTERVIEW…③

私たち「きらり」輝いています!NPO  
 ●朽木針畑山人協会 (環境)  
 ●地域生活サポートセンター じゅぶ (人権・障害者支援)  
 ●ネットワーク「未来シンフォニー」(環境)

### がんばれ!NPO 応援団…⑤

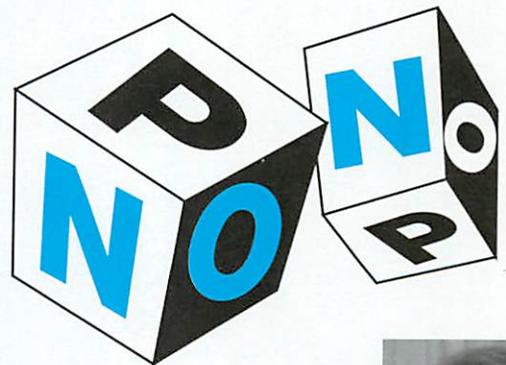
【めととと★コラボ】森林発電プロジェクト  
 【マネジメント講座Q&A】  
 【ONLY ONE リレーエッセイ】  
 【スローグッズ探検隊】

### 行って来て見て情報BOX 7月・8月…⑨

●今月のピックアップイベント

# 十代の子ども たちを動かす 大人の役割

今回のおうみネットでは、高校生を中心に在日朝鮮人や障害者の人権問題に取り組んでいる「セパド実行委員会」の活動を通じて、若い人がどんなことをきっかけにして活動に入るようになったのかについて考えたいと思います。



徳永 信一さん PROFILE

滋賀県立大津中央高校（現大津清陵高校）在勤中、「セパド・人権を考える高校生のつどい」の活動をはじめ。現在、滋賀県立野洲高校国語科教諭。

●「セパド実行委員会」を立ち上げたきっかけについて教えてください。

■徳永 一九九三年に大津市が、当時無年金状態にあった在日朝鮮人の障害者・高齢者に対し、市独自に福祉金を支給することになり、そのPRの一環として、支給手続きのお手伝いに高校生をボランティアで参加させてくれないか、という呼びかけがあり、北大津高校と大津中央高校の生徒が参加しました。こちらとしては、在日の方と出会う機会なので生徒を参加させるのはよいが、その後、出会い・話し合いの場を設けてくれないかと依頼しました。その時生徒たちから「在日朝鮮人問題について、今まで知らなかったし、もっと知りたい。できれば在日の同世代の若者と語り合える機会をつくってほしい」という声がありました。そ

ういう声を聞いた以上、場を設定するのは大人の責任ということで、関係者の協力を得て、その年の9月に第1回の「セパド・人権を考える高校生のつどい」を開催しました。

●「どんなかたちで会をすすめているのですか。」

■徳永 「セパド」には私を含め、教師も参加していますが、それは教師としてはではなく、地域生活者の一員として、いわば、地域のおっちゃん・おばちゃん的に、気楽に人権についてしゃべろうよ、という感じで行っています。出会ってしゃべることが大事なんですね。会の名称の「セパド」の意味は、何かいい名前がないかと考えたとき、ちょうど大阪で「セツパラム（新しい風）」という名称のグループが同じような趣旨で活動

をしていたので、それを受けて「びわ湖に新しい波がおこる」という意味で「セパド（新しい波）」と名付けました。

●「高校生の参加はどれくらいですか。」

■徳永 年によって違いますが、二十五〜五十人の間です。

●「セパド」でどんな取り組みをされているのですか。

■徳永 在日朝鮮人に対する差別問題をはじめ、日本社会のさまざまな人権問題について話し合いをしています。ここ十回続いてキーワードになっているのが、「誇り」と「違い」。違いを認めることが「セパド」で人権を考える一番の柱になっています。

# 大人の役割は、どれだけ生徒のエンパワーを保障できるか、だと思っています。

●参加することで高校生の意識に変化は見られますか。

■徳永 一般論でなかなか言えませんが、例えば、民族学校の生徒は自分たち民族に「誇り」を持っているんです。参加する日本人高校生からいつも、「なぜそんなに誇りを持っているのか」と疑問の声が上がります。そこで逆に、自分たちが誇れないのはなぜかとか、自分たちと社会の関係性を考えることにつながります。差別についても、被差別部落出身の子などは、いつも自分は差別をされる側で考えてきたと思いますが、在日の子の話を聞いていると、やはり、立場が代われれば差別をする側だとわかる訳なんです。両方から差別を見抜いていかないと差別はなくならない、ということを考えるようになります。

民族学校生のほうも、「人権」を真正面にした交流は少ないらしく、同世代の日本の高校生や日本の学校へ通う同胞との出会いは刺激になるそうです。

私自身としては、生徒たちに、これから地域社会人として地域社会で生きていく中で、被差別の人、外国人、障害をもつ人などいろいろな人が地域で暮らしている。そういう中でいずれ生きていくにあたって、どんな出会い方つながり方をしていけばいいのか、という意識の出発点に「セバド」

が応えられればと思っています。今よりもよい地域社会をつくっていくためにいい出会いをしてほしいという思いを託しています。

●今は、実行委員会というかたちで、活動は話し合いが中心ですが、もう一歩踏み込んで、組織化して、社会に向けて活動しようと思っていないのですか。

■徳永 継続的な組織にしようとなると、形骸化してしまうし、組織を維持していくために個人が疎外される危険があります。できるだけ自由でアグレッシブな個の集合体という枠組みでやっていきたいと思っています。

「セバド」はあくまで出会う場所と考えていて、たとえば、そこで出会った者同士がまた何か考えよう、何か行動を起こそう、その動きが、例えば環境に向かうかもしれないし、人権に向かうかもしれない。それはそれでいいと思いますが、「セバド」がそれに向けて変わっていく、ということはしたくないと思います。今は毎年立ち上げ、毎年解散するという形で、毎回新しい高校生が来ています。彼らに伝えられる場、「問題との出会いの場」ということを大事にしたいと思っています。「知らない」ということが、自分自身の人権や社会的立場を失わせているということに気づく場でありたいと思っ

ています。

これは今後の「セバド」の活動にも影響することですが、今まで

の滋賀県奨学生集会を再編して、昨年度、県人権センター主催で滋賀県高校生交流集会が立ち上がり、十年間セバドが背負ってきた諸課題について、ひとつ新しい受け皿ができました。全体的なところはその集会に委ねて、「セバド」は「在日朝鮮人問題」という原点にこだわろうかと話し合いをしているところです。

●「セバド」に積極的に取り組むよう生徒の気持ちをおかしたものはなんだと思いますか。

■徳永 なんだったんでしょね。学校で人権学習を担当している立場で思うのですが、人権学習が考え方の段階でとどまっただけで、考え方や発想を変えて終わらしてみたいところがある。子どもは「えっ」と思ったことじつとしてはいられない。何かしてみたい。学校は一歩踏み出せないで、そのことに応えられない。「セバド」はその辺りに応えられているのかもしれないね。





●「第11回セバド人権を考える高校生等のつどい」の様子。

●学校では一歩踏み出して生徒に応えることはできないのですか。

■徳永 やろうと思えばできると思います。けれども「高校はこういうもの」という固定観念、いわば高校適格者主義みたいなものに学校自身がしばられていることが多く、そういう発想の中に人権学習が位置づけられている。人権学習も消化科目、年間の取り組みのひとつである。人権に敏感な子どもにとって、特に被差別の立場にある子どもからすれば、学校の人権学習に不満があります。「セバド」は学校の枠組みを越え、しかも直接の出会いもありますから、その辺りに応えられていると思います。

●学校でボランティア活動を義務化しようという動きもありますか。

■徳永 「形」として学校現場に定着させようという動きは強まっていると思います。が、今の教育行政主導のやり方は単なる「勤労奉仕」のようなもので、個人的には反対ですね。学校現場でも社会でも勘違いさ

れているところだと思うのですが、ボランティアとは人に喜ばれることをすることといわれていますが、私はちょっと違うと思います。自分が喜べることをするのがボランティアだと。誰も誉めてくれないけれど、それをしている自分が好きなんだ、というような主体性が一番の出発点にないといけないと思います。「セバド」に参加してくれた子の中で、自主的にさまざまな活動に飛び込んでいる子がたくさんいます。彼らは、誰に教えられたわけではなく、当たり前のこととしてやってくれています。それがいいんじゃないかと思えますね。

●十代の子どもがなかなかボランティアなどの社会参加をしないのはなぜだと思いますか。

■徳永 学校や大人の側が、子どもに「与える」情報やイメージをチョイスしすぎている。しかも、それが子どもにとって魅力的でない、ということが一番の問題だと思います。今の十代の子が、例えば社会に対して問題意識が低いとか自分の思っていることを言えないとかいわれますが、問題意識がないわけではなく、よく考えていますよ。ただ、確かに人とのコミュニケーションは下手ですけれども。自分たちの考えを自由に出していいよ、という場所がない。「セバド」は枠組みだけ用意して、あとは勝手に自分たちでやっていいよ、と。その中で結構、自由なやりとりができたし、参加する教師や大人たちも、同じ地域で生活する人間として高校生と同じ視点で、この問題

をどうするかと議論に参加しています。「セバド」に参加した高校生は無条件に「楽しかった」「また参加したい」と思ってくれています。大人の役割は、どれだけ生徒のエンパワーを保障できるか、だと思います。

●子どもの気持ちを動かすのは大人の責任とありますが、大人はどんな環境を作っていけばよいと思われませんか。

■徳永 知らないことを「知らせる」ということも大事ですが、例えば教師が学校で人権を教えるときに、その教師自身が、学校を離れてひとりの地域の社会人として、社会に対してどんな視点で、どういったかわりを持って、どういうつながりをつくらうとしているのかが問われると思います。その意味で今の大人が魅力的なモデルイメージになっているのが大きく問われます。

人権は目の前で起こっている社会の問題なのに、学校では古びた教材のように教えている。なぜ人権学習をするのかという説明に時間を割いていないし、十分なされていない。そのため、「させる・させられる」という関係になる。教師が高校生に人間として対等に向き合い、まず信じるが大切だと思います。その上で、動機づけ、視点をはっきり示し、高校生に納得のいく説明ができれば、子どもは自発的に動くと思います。本当に純粹ですから。ただ、高校生の感覚に触れることができる教師が少ないです。大人も常に感性を磨き続けないと高校生との接点は難しいと思いますね。

注)ここでの「在日朝鮮人」という呼称は、韓国・朝鮮・日本等の国籍にかかわらず、朝鮮民族であることにアイデンティティをもつすべての人に対するものです。

# きらり輝いています！

# NPO

『過疎』と『過密』の融合ができれば…  
自然を残しながら地域の活性化をめざしています

## 環境 朽木針畑山人協会

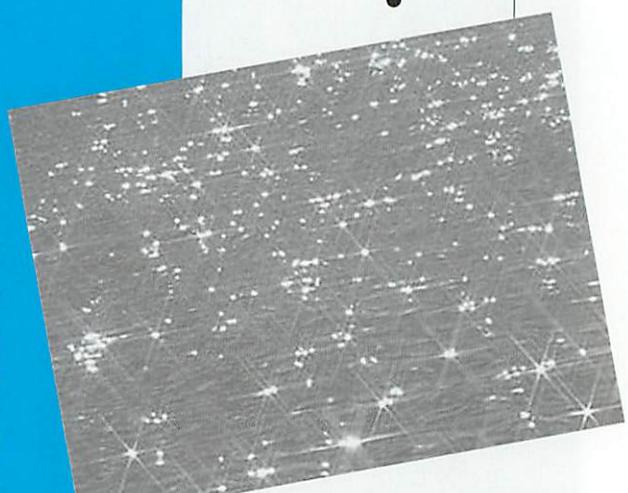
針畑は朽木村の最奥、安曇川の支流針畑川の源流に位置する地域です。峠をこえると京都もしくは福井。冬季は二メートルもの積雪があるというこの地域には、過疎と高齢化の波が押し寄せています。これを危惧して生まれたのが「朽木針畑山人協会」。針畑が好まきで移転してきた新住人と古くから暮らす人たち、そしてそれに賛同する他の地域の人も参加して、二〇〇一年春、活動を開始しました。



●事務局長の山本利幸さん。

メンバーは、古道の整備、荒廃田の復元整備や文化の掘り起こし、ブナの森の伏流水（わき水）のある村人の憩いの場である「清水（しょうず）」の整備などに取り組み、四季ごとの新しい「祭」も開催しました。「多くの人に来てもらって、自然や文化を守っていくことの大切さや、針畑という山村の暮らしを知ってもらいたいですね。それに針畑を出て行かれた人が故郷に帰って来た時に、やっぱり村が元気で残っていない」と事務局の山本利幸さん。京都生まれの山本さんはこの針畑の自然に魅せられた一人です。

昨年、行政の尽力で「針畑郷山村都市交流館」が誕生、運営を協会が受託しました。人々がやってくるのではなく、帰ってくる場所になって欲しいと「山帰来」と名付けられた交流館は、協会の活動の拠点となりました。



地域でボランティア活動を広めようと奮闘しているあなた、新たにNPO活動を立ち上げて琵琶湖のまわりを走りまわっている君、「淡海」というフィールドで、静かだけれどどこか「きらり！」と輝いているボランティア活動や

市民活動で活躍されているNPOの皆さんをご紹介します。

田んぼに赤米を植え、わき水で豆腐を作り、そばを植えてそば打ちもしました。「山帰来」に薪ストーブを入れたことから、薪や木質燃料バイオマスの販売も考えています。「人に住んでもらうのが一番の目的。だからここで生活するための『仕事』を作らないといけないんですよ」と山本さん。

昨年、淡海ネットワークセンターの「第一回おうみNPO活動基金」に応募、地域全体を博物館にするための助成を受けることが決まりました。西日本では数少ないブナ帯に暮らす人々、ここに山と人との関係をテーマにエコ・ミュージアムを作ろうと計画しています。山間の過疎地域の活性化は、針畑地域のみならず、過疎に悩む日本各地の山村の再生につながるのかも知れません。



●交流館「山帰来」では針畑の特産物や喫茶を提供。



●冬イベントでのそのの木材運搬作業再現風景。

特定非営利活動法人朽木針畑山人協会  
代表●西澤明  
設立●2001年4月（2002年10月法人認証）  
会員●80名  
連絡先●高島郡朽木村中牧528  
TEL：0740-38-9088  
FAX：0740-38-9038  
URL：http://www.ex.biwa.ne.jp/yamabito/  
e-mail：yamabito@ex.biwa.ne.jp



●代表の伊佐さん(右)と朗読劇「びんぼう神様さま」の脚本・演出を手がける会員の安達さん(左)。

## 稲作のあり方を改革し、きれいなびわ湖を取り戻したい

きれいなびわ湖の水を取り戻したいという熱い思いから、汚濁の原因である農業排水を何とかできないかと考え、稲作のあり方そのものの改革に立ち上がった。自然の摂理にか

なった「自然耕(不耕起農法)」への取り組みである。

農業や化学肥料を使わず、稲を収穫した後の土地は耕さない。土地を耕さずに冬の田んぼに水を張る(冬期湛水)ことによって、残った稲や葉が分解されて水中にプランクトンが増殖する。それをえさに昆虫や小さな魚が生息するようになり、鳥が集まる。

「堅田の落雁」といわれた近江の風景はこうして生まれたのでしょうか。その風景を呼び戻さねば」と代表の伊佐恒範さん。「鳥が来れば除草効果があるし糞が肥料となる。もともと自然はうまく循環するようになってい

るのです」。

自然の理屈にあった稲作の結果、おいしいお米がとれ、田んぼが汚染されなくて済む。そして琵琶湖の水がきれいになる。文字どおり「いのちを守る田んぼづくり」なのである。根のしっかりした成苗を植えることによつてよい収穫を得られることも実験済みである。自然耕をどう普及させていくか、伊佐さんの関心は生産農家と消費者を結びつけるこれからのネットワークづくりにある。伊佐さんが指揮棒をふるシンフォニーが将来、びわ湖に響き渡る日の近いことを祈りたい。(編集ボランテニア 森口行雄)



●伊佐さんの伊香立の自然耕の田んぼ風景。

### ネットワーク『未来シンフォニー』

代表●伊佐恒範  
設立●1999年4月  
会員●10名  
連絡先●大津市真野1-31-34  
TEL: 077-573-5113  
FAX: 077-574-4267  
e-mail: manoisa@rondo.plala.or.jp

## 障害のある人が行きたいところに行けて、一人暮らしもできるようにサポートします。

「じゅぷ」は障害のある人が「地域であたりまえに」自立した生活を送るための支援活動を行なっている組織です。

活動は三つの事業から成り立っています。その一つは家事援助や介護などの「ホームヘルプ」事業、二つ目は、移動にハンディのある人なら誰でも利用できる外出支援サービス「まちかどサポートステーション」。三番目が、知的障害のある人が一人暮らしやグループホームでの自立生活を目指し、日常生活を体験する「自立生活トレーニングハウス・コパン」です。

その意義と機能について、事務局の染井将仁さんにお聞きしました。「障害のあるなしにかかわらず、家にいると自立しませんよね



●障害のある人の自立生活トレーニングハウス



●高齢者等の足となる外出支援サービス

親から離れ、「コパン」のアパートの部屋で、ヘルパーとともに食事づくりや洗濯、掃除をし、宿泊する体験を積み重ねる中で、知的障害のある人たちは自分がどれだけできるのか、何を頼めばいいのかを知り、自立生活のイメージをつかんで、将来を自立して生きていく目標を持てるようになります」。

また、「この子を残して死ねない」という障害者の親の苦しみを解決していく大きな一歩でもあります」とも。

これらの支援事業を実現化させてきたのは、障害のある人たち自身が中心となった二十五年以上にも及ぶ根強い活動でした。

支援制度の使いにくさや、ヘルパー不足(「コパン」利用は順番待ち状態・ヘルパーさん募集中のこと)など、課題は山積みなのですが、障害のある人が主体となり、その暮らしにくさを解決することこそが、街や地域全体の暮らしやすさづくりそのもの、と信じて共に生きて働いて来られた人々の結果としてのNPO。道を拓いていかれるに違いありません。(編集ボランテニア 石川悠子)



●事務局の染井将仁さん

### 地域生活サポートセンター『じゅぷ』

代表●清水義昭  
設立●2002年10月(2003年1月法人認証)  
会員●50名  
連絡先●大津市大將軍3丁目8-8  
TEL: 077-548-3511  
FAX: 077-543-2767  
e-mail: je-peux@mx.scn.tv

□議題ごとの時間配分はできていますか。

□進行役は決まっていますか。

いつまでもだらだらと続く会議は出席者にとって負担です。その会議を責任持って進行する担当を決め、時間内に会議の目的が達成できるようにしましょう。

□黒板・ホワイトボードを利用していますか。

議論がループにならないように、会議の進行状況を出席者が確認できるようにしましょう。黒板やホワイトボードを活用するといいでしょ。

□会議の内容を記録する人はいますか。

時間がたつと記憶は薄れます。決定事項が曖昧にならないよう、記録（議事録）を残しましょう。決定に至る経過を記録することも大切です。

□会議の結果を関係者が共有できていますか。

欠席者に会議の内容、決定事項を連絡しましょう。

□参加しやすい日時が選ばれていますか。

欠席者が多く必要なことが決められません。なるべく多くの人に参加できる日時を選びましょう。

□会議場所の環境はよいですか。

出席者が行きやすい場所にありますか。出席人数に応じた広さがありますか。テーブル・椅子は足りていますか。温度、静かさなどの環境はどうですか。

□必要なものが準備できていますか。

会議に必要な資料・機材は準備できていますか。

お菓子、お茶などがあると雰囲気や和みます。

堅苦しいばかりの会議では出席者の足も遠のきます。時には脱線も良いでしょう。楽しく集うことを心掛けましょう。



▲最高時速52kmという木炭自動車。  
1kgの炭で約7km走行。

まわしたり、電動工具を動かしたりしています。夢はさら

に広がり、木質ガス自動車の製作に成功、資源循環型社会のPR車として、県内あちこちの環境イベントで子ども達に大人気だそうです。

行政と市民の協働で始まったプロジェクトも、市民による主体的な活動を目指して「おうみ木質バイオマス利用研究会」が誕生。今では市民らが自主的に毎月第1・第3土曜日（10時～16時）に定例会を開催、新たに木質ペレットガス化発電実験にも取り組んでいます。森林発電や森の利活用に興味のある方はぜひ参加してみれば、森の豊かな恵みを通して、環境にやさしい生活を見直してみませんか？

【問】森林発電プロジェクト  
(湖東地域振興局 環境農政部森林整備課)

TEL : 0749-27-2217 FAX : 0749-26-4864

URL : <http://www.biwa.ne.jp/forest-p/>

▼耐火煉瓦製の炭窯。約200kgの炭が作れる。



## 「心の遺産を伝承」

次回は「秀次倶楽部」の高木茂子さんです。

# ONLY ONE

## リレーエッセイ



NPO法人ヴォーリス建築保存再生運動「一粒の会」

石井 和浩さん

近江八幡で積み重ねられ築かれてきた固有文化である八幡堀・近江商人の町家・ヴォーリス建築を通して、この地の先人たちから受け継がれてきた歴史の記憶を大切にしていきたい。また、固有文化に根ざした生活の香りがする魅力的な“まちいかし”ができればと思っていました。

1997年10月頃から、まちの資産であるヴォーリス建築の保存改修を市民活動として取り組む中でヴォーリス建築が語りかけてくることを読み取ると、ひとまちも健康であるべきであり、ひとを育てる基として意識しているヴォーリスの心を後世へ伝承し活かしていくことが私たちの最も重要な役割だと認識しています。

市民参加によるまちづくりが手作りで達成できる。自らが実験台となりチャレンジすることが大きな意味をもつと考えています。自らがまちを愛し、楽しみながらプロセスを共有することによって、人とのつながりや郷土愛が育まれることを期待しています。

## スローグッズ探検隊

NPO団体が開発した人や自然にやさしい商品をご紹介します!

ふれあいゲームキット

さわやか福祉財団

TEL:03-5470-7751



「ふれあいゲームキット」は、自分たちの地域やグループにあった地域通貨づくりのヒントになる、地域通貨体験ゲームです。5～10人が1グループとなり、いくつかのグループで楽しむゲームで、「サービスマニューカード」と「時間通貨」のやりとりを通して、助け合うことの大切さ、楽しさを実感することができます。また、地域通貨のしくみや、どのように運営したらいいかが体験を通してわかるようになっています。

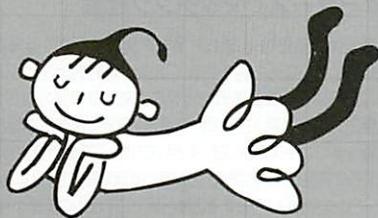
このゲームは、さわやか福祉財団のホームページからダウンロードして使うことができます。ゲームで楽しく、グループ内の交流を図ってみませんか？

さわやか福祉財団・地域通貨のホームページ  
<http://www.sawayakazaidan.or.jp/chikitsuka/>



# がんばれ!NPO 応援団

市民活動を元気にする情報コーナー



## おらみネット マネジメント講座Q&A

市民活動を継続させるためのワンポイントアドバイス。  
★お聞きになりたい質問を受け付けています。

**質問：**会の活動について会議をしようと集まっても大切なことがなかなか決められません。効率的に会議を開くコツを教えてください。

**回答：**市民活動を行ううえで意志決定をする会議（打ち合わせ）は欠かせません。会議は、出席者の貴重な時間を拘束しますし、遠方の場合は参加する労力も大きくなります。それだけに充実した効率的な会議を開きたいものです。

会議の持ち方についてのポイントを挙げてみましたのでチェックしてみてください。

会議を開く目的ははっきりしていますか。

会議を開く目的が不明確であると結論はでませんし、会議を開く意味もありません。出席者全員が認識できるように会議の目的を明確にしましょう。

会議の議題を事前に出席者に案内していますか。

イベントのアイデアや問題の解決について出席者が企画を出し合うことが必要な場合、何の準備もなく急にアイデアを出してくださいといわれても無理な話です。事前に議題を出席者に連絡し、提案を準備してもらおうようにしましょう。

会議の終了時刻を決めていますか。

## めとてとコラボ

市民と行政、市民と企業などの、新しい市民協働（パートナーシップ）のカタチを紹介します。

### 森林資源を利活用するため、市民と行政の協働による 資源循環型社会のミニモデルづくりを実現したい。

#### 森林発電プロジェクト



▲事務局の恩庄さん ▲みんなで手づくり、森のエネルギー小屋。



▲手作りの木質バイオマス発電所。約2kwの電気を発電する。

「間伐材を燃やしてエネルギーを得るだけでは単純過ぎる」という市民の意見から、『木質バイオマスによる森林発電プロジェクト』にテーマが決定。活

琵琶湖を取り巻く森林。その森の成長を助けるために間伐をしています。しかし、手間暇かけて育ててきた間伐材が、搬出してもお金にならないという理由で、山に放ったままになっているんです。このままでは非常にもったいないということで2000年度、湖東地域振興局では間伐材をエネルギーとして活用するプロジェクトを発足。木質バイオマス（※）による資源循環型社会のミニモデルづくりを市民に呼びかけたところ、県内外から10代～90代の155人が集まりました。

※「木質バイオマス」とは石油や石炭などの化石燃料と対比され、「生きた燃料 biofuel」と呼ばれる。

動場所は、一部事務組合である大滝山林組合の協力で、森林体験施設「高取山ふれあい公園」（多賀町藤瀬）に設けられました。足利工業大学の塩ノ谷教授提唱の『木質ガス発電所』理論をもとに、近江高等技術専門校、滋賀県立大学等と行政、市民の協働で発電所のミニモデルづくりがスタート。試行錯誤しながら、間伐材による森のエネルギー小屋づくり、炭窯も手づくりで完成。森林保全のための下刈りや植栽・間伐作業も行い、間伐材から炭をつくり、炭は公園内の池の水質浄化システムにも利用。木質ガスで発電された電気で扇風機を

# 9月・10月の掲示板 **情報募集中!** 日時・場所・問合せ先等を明記の上、8月8日までにEメール、FAXまたは郵便でセンターまでお寄せください。

## ●(財)イオン環境財団2003年度助成先公募

趣旨●地球市民の一員として地球環境の保全・地球環境の保全のために積極的、継続的に活動を行っている団体・個人に助成するものです。  
 対象●開発途上国及び日本国内での活動を対象とし、フィールドワークを伴う環境保全活動(A)植樹・緑化・砂漠防止(B)野生動物・植物の保護(C)自然環境の浄化(D)その他自然の生態系を守るための実践活動  
 応募期間●7月31日(木)まで  
 【問】(財)イオン環境財団 助成先選考事務局 住所:〒261-8515 千葉県美浜区中瀬1-5-1 TEL:043-212-6022 FAX:043-212-6815 e-mail:ef@aeon.info URL: http://www.aeon.info/ef/jp/kankyo/index.html

## ●財団法人みずほ福祉助成財団

目的および事業●当財団は社会福祉に関する諸活動に対して援助を行い、その向上に寄与することを目的として、社会福祉に関する事業・研究に対する助成を行います。主として、心身障害児者の福祉向上を目的として事業を展開します。応募締め切り●7月31日(木)当日消印有効  
 【問】財団法人 みずほ福祉助成財団事務局 住所:〒100-0004 東京都千代田区大手町1-5-4 TEL:03-3201-2442 FAX:03-5252-8660 E-mail:BOL00683@nifty.com URL:http://homepage3.nifty.com/mizuhofukushi

## ●第30回大和証券ヘルス財団調査研究助成

応募課題●中・高齢者(特に高齢者)の保健・医療及び福祉等に関する調査研究  
 応募期間●7月31日(木)当日消印有効  
 【問】財団法人 大和証券ヘルス財団事務局 住所:〒103-8219 東京都中央区日本橋茅場町1-1-9 大和証券兜町ビル TEL:03-3665-5020 FAX:03-3661-2271 URL: http://www.daiwa.co.jp/group/kouken/dsh\_info2003.html

## ●WWFジャパン日興グリーンインベーターズ基金

応募期間●7月1日(火)~8月31日(日)  
 【問】〒105-0014 東京都港区芝3-1-14 日本生命赤羽橋ビル6F WWFジャパン 自然保護室助成担当 Tel:03-3769-1772 E-mail: masayuki@wwf.or.jp URL http://www.wwf.or.jp/join/onemore/4\_4\_2greeninvesters.htm

## ●ファイザープログラム 心と体のヘルスケアに関する市民活動支援

対象分野●(1)成長過程にある人たちの心身の発達を支援する活動(2)社会的な受け皿がないために保護・医療が受けられない人たちの心身のケアを支援する活動(3)障害を持つ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動  
 助成対象団体●(1)非営利活動団体であること(2)日本国内に活動拠点があること(3)政府・自治体などの公機関から資金を得にくいもの(4)団体や活動内容が、政治・宗教などに偏っていないこと  
 応募方法●応募書類を事務局宛に郵送または宅配便で送ってください。  
 応募期間●7月18日(金)まで  
 【問】ファイザー製薬株式会社 ファイザープログラム事務局 担当 田村 住所:〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7新館文化クイントビル TEL:03-5309-7057 FAX:03-5309-9004 URL:http://www.pfizer.co.jp/pfizer/company/phiranthropy/index.html

## ●日本財団 2003年度福祉車両(車いす対応車)助成

内容●高齢者や障害者度、歩行が困難な方々の外出や送迎を支援します  
 対象団体●活動のなかで送迎・移送サービスを事業を行っているボランティア団体・NPO法人  
 応募期間●6月2日(月)~7月31日(木) 当日消印有効  
 資料請求先●日本財団 ボランティア支援部「福祉車両(車いす対応車)」係 FAX:03-6229-5330  
 【問】日本財団 ボランティア支援部「福祉車両(車いす対応車)」係 住所:〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2 TEL:03-6229-5173 e-mail:volunteer@ps.nippon-foundation.or.jp URL:http://www.nippon-foundation.or.jp/

## ●財団法人 味の素食文化センター 第15回食文化研究助成募集

対象研究●(1)食に関する文化的研究であり、深く文化的背景を考察する研究(2)研究の視点に独自性があり、1年後、食文化研究に新しい知見を加える成果が期待できること(3)同じ課題について他の助成を受けないこと  
 募集期間●8月8日(金) 期間内必着  
 【問】財団法人 味の素食文化センター 住所:〒104-8315 東京都中央区京橋1-16-7 味の素本社ビル別館2階 食文化研究助成事務局 TEL:03-5250-8396 FAX:03-5250-8234 e-mail:zyosei\_asb\_asb@ajinomoto.com URL:http://www.syokubunka.or.jp

## ●子どもサポーターズ☆マッチング基金

助成対象事業●団体の基盤強化:優れた事業を展開する青少年育成NPO/NGOの基盤強化及び団体運営能力の強化を図るもの 事業の質的向上:社会の変動や多様化する青少年のニーズに応えるため、青少年の健全育成に有効な事業の質的向上を目指すもの  
 助成対象期間●2004年1月1日~同12月31日までの間に実施、終了したもの  
 助成対象団体●少年のニーズに基づき、主として5歳~25歳の青少年の自立と健全な成長に資する事業を継続的に実施している団体。法人格の有無を問わず、日本国内に活動の拠点を有する団体。原則として助成を受けようとする活動分野で2年以上の実績を有する団体。助成受諾時の「団体名称」公開、「報告書」の提出・公表に同意する団体  
 申請受付期間●7月1日(火)~7月31日(木)当日消印有効  
 【問】特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム(JIYD)担当:鈴木 住所:〒108-0074 東京都港区高輪4-10-63-202 TEL:03-3440-3373 FAX:03-3440-4447 e-mail: grant@jiyd.org URL:http://www.jiyd.org

## ●滋賀会館シネマホール 8月の上映予定

【新作ロードショー】  
 8月6日(水)~17日(日)「ぼくくんち」  
 8月20日(水)~31日(日)「それいけ!アンパンマン ルビーの願い」  
 8月20日(水)~「WATARIDORI」【リクエスト・アンコール】  
 8月6日(水)より「黄泉がえり」  
 8月13日(水)より「ギャラクシー・クエスト」  
 8月27日(水)より「ボウリング・フォー・コロンバイン」  
 当日料金は、毎週水曜日¥1000均一! ロードショー/一般¥1700/学生¥1400/シニア・小中高¥1000 スタンダード/一般¥1300/学生・シニア・小・中¥1000 共通前売り券¥1300(月毎の券です)いたします。  
 ・各回入替制  
 ・上映時間・料金はお問い合わせ下さい。  
 TEL:077-522-6191 滋賀会館シネマホール

### ◆リクエスト受付中!

上映してほしい作品名と住所、氏名、電話番号を記入の上、ハガキ、ファックス、または電子メールで淡海ネットワークセンターまでお送り下さい。抽選で3組6名の方に、滋賀会館シネマホール映画鑑賞券をプレゼントいたします。

## クローズアップ・情報BOX



産直びわは、地元の新鮮な野菜や南浜びどう・湖魚等販売し、地元農家と周辺都市住民の皆さまとの「産地地消」を進めています。そこで今回、地元の食材をおいしく食べていただくため「あなたのお総菜」コンテストを開催します。

- 募集内容: 湖国の地元食材を使ったお総菜(総菜は1種類で応募ください)
- 一次審査: 料理レシピ(応募用紙)による書類審査  
 二次審査: 8月23日(土) 11:00~12:00 (実際に調理し最終審査)  
 会場: びわ町環境改善センター調理室
- 応募点数: 1人(1グループ)何点でも結構です。
- 締め切り: 8月1日(金) 必着
- 参加費: 無料(2次審査の材料費等の経費は各自負担ください。)

## ● 湖国「総菜の鉄人」は誰だ! 「あなたのお総菜」コンテスト

### ●審査の基準:

- (1) 地元の食材を活用し「滋賀県」らしさがあること
- (2) ご飯のおかずになる総菜であること(パン・麺類ではなく)
- (3) 料理に「伝統」や「物語り」を活用していること
- (4) 材料は安価で入手しやすいものを使うこと

### ●審査委員: 岸 朝子(食生活ジャーナリスト)

### ■申し込み・問い合わせ:

〒526-0113 びわ町南浜297「産直びわみずべの里」宛  
 TEL&FAX: 0749-72-5212 店長中川まで  
 (郵送または、FAXで申し込みください)

※「産地地消」を推進する意味で提出されたレシピは広く公開します(匿名可) ご了解ください。



## 参加者募集

### 親子いきものふれあいキャンプ

▶ 7月19日(土) 10:00~20日(日) 15:00  
 場所●朽木いきものふれあいの里センター  
 内容●清流での水遊び、里山の植物や昆虫などの観察など  
 対象●どなたでも参加可(定員30名)  
 ※7月9日申込締切  
 申込み多数の場合抽選  
 参加費●大人6~7,000円(子どもは割引)  
 【問】朽木いきものふれあいの里友の会  
 TEL:0740-38-3110

### ニューミックステニススクール参加者募集

内容●障害者と健常者がペアを組んでプレーする競技。車いすも健常者もコートでボールを追って汗を流そう。  
 ☆大津市浄化センター屋上テニスコート:19:00~21:00  
 7月23日、8月27日、9月24日、10月22日の各水曜日  
 ☆精神保健総合センターコート:13:00~17:00  
 7月20日、8月24日、9月28日、10月26日の各日曜日  
 ※いずれも雨天中止  
 【問】大津市ボランティアセンター  
 TEL:077-525-9316  
 FAX:077-521-0207

### 大津市障害児児童保育「ボレボレ」 「夏休みスクール」ボランティア募集!

内容●障害をもつ子どもと一緒に歌を歌ったり、散歩に行ったり、楽器をならしたり、お料理をしたり、プールに行ったりします。  
 活動日●7月—19(土)、23(水)、24(木)、26(土)、28(月)、30(水)、31(木)  
 8月—4(月)、7(木)、9(土)、11(月)、18(月)、20(水)、21(木) 23(土)、25(月)、27(水)、30(土)  
 ※変更になる場合があります。  
 時間●9:30~15:30  
 主な活動場所●草津県立養護学校、県立福祉センター、ノエル仕事の家など  
 【問】昼間/松本TEL:077-543-6025  
 渡辺TEL:077-543-6708

### 不登校児支援団体 「やまぼうし」スタッフ募集

内容●不登校およびその傾向にある青少年の支援をしています。活動に参加して下さるスタッフを募集しています。  
 活動日●毎月1~2回、土曜日  
 活動場所●主として彦根YMCA  
 【問】彦根ファミリーYMCA  
 TEL:0749-23-1646

### ボランティアサークル 「あすなる」メンバー募集

内容●中学1~3年生の自閉症の子どもたちとハイキングに出かけたりお食事を開いたり、休日を楽しんでもらうための活動をしています。  
 活動日●毎週木曜日19:00~(ミーティング)  
 活動場所●中京青少年活動センター  
 【問】ボランティアサークル  
 あすなる 代表 養島  
 asu\_naro23@yahoo.co.jp

### 学生環境グループ「水人」の 新規メンバー募集

内容●たいまつ祭りの企画・運営、ゴミ清掃、環境教育、ヨシ関連の企画・運営など  
 募集要件●主に大学生で環境に興味のある人、こんな企画をやりたいと考えている人、何かに情熱を持っている人なら誰でもOKです!お気軽に下記のアドレスまでご連絡下さい。お待ちしております。  
 【問】学生環境グループ「水人」代表 山本  
 e-mail:mizubito2002@hotmail.com

### 精神障害者患者会 (こころの会) からのお知らせ

こころの会ではピアカウンセリングを24時間年中無休でしています。下記の電話へおかけ下さい。  
 TEL:0748-52-4255  
 090-8527-4703

## イベント情報

### 第1回熱人談義 「まちづくりの思想とは」

▶ 7月25日(金) 19:00~  
 内容●定例的に気軽に勉強会「熱人談義」を開催。NPOなどのキーパーソンをゲストに、これからの滋賀を語り合しましょう!  
 ゲスト●織田直文さん(京都橘女子大学教授)  
 場所●まちづくり大津百町館(大津市丸屋町1-8-13)  
 参加費●500円  
 ※終了後、参加者によるワンコインパーティーを開催します。  
 【問】NPO市民熱人  
 FAX:077-522-2997  
 e-mail:yoshi-ab@mx.biwa.ne.jp

### マルチライフフェア

▶ 8月30日(土) 14:00~  
 場所●大阪NPOプラザ3Fホール  
 参加費●無料  
 【問】特活)大阪NPOセンター  
 TEL:06-6460-0268  
 e-mail:osakanpo@onp.or.jp

### 歌曲研究会「からたち」 第1回演奏会 「中田喜直の世界」

▶ 7月13日(日) 14:00~  
 場所●県立米原文化産業会館 小ホール  
 【問】歌曲研究会「からたち」  
 TEL:090-2282-9880(北島)

### 第14回 真夏の音楽祭inびわ湖

▶ 7月21日(祝) 10:00~20:00  
 内容●真夏の日中、音楽を楽しむ時間と空間を提供します。出演したい人は誰でも出られる参加型の音楽祭!  
 場所●彦根市松原水泳場イベント広場  
 【問】まなつのコンサートをやらせ実行委員会  
 TEL:0749-24-0916

## 勉強会・交流会

### 男女共同参画連続講座 自分で立ち、共に歩み、 みんなでつなぐ 個から共生へ

☆「介護に不安はありませんか」—体験から学ぶ—  
 8月6日(水) 13:30~16:30 アロフェンデ彦根  
 ☆「わたしの作りたい男女参画センターを語ろう、トップバッターで築く男女参画」  
 9月6日(土) 13:30~16:30 文化プラザ団体交流室  
 資料代●各講座 300円  
 託児●全講座託児あり 託児もします  
 申し込み● FAX:0749-43-0685  
 ハガキ:〒522-0086 彦根市後三条町124 三宅方 田中 妙子宛  
 ※なるべく連続講座を歓迎しますが、1講座単位の受講も出来ます。当日の受付もします。

### 2003年度 CAPNeS 連続講座

内容●虐待防止の四領域(防止、介入、治療、研究調査)をテーマに以下のとおり年4回の連続講座を開催します。ぜひ参加してください。  
 ☆「CAP(子どもへの暴力防止プログラム)」  
 7月12日(土) 14:00~17:00  
 ☆「子どもの虐待防止、介入の今」  
 8月9日(土) 14:00~17:00  
 ☆「介入後のケアについて」  
 9月20日(土) 14:00~17:00  
 ☆「虐待防止等にかかわる教員の意識から」  
 10月11日(土) 14:00~17:00  
 会場●滋賀県職員会館 2Fホール  
 参加費●連続4回参加 1,800円(1回500円)  
 【問】晴れの家(内)CAPNeS 事務局  
 FAX:077-531-0967

## 助成金情報

### 財団法人 淡海環境保全財団 平成15年度 環境保全活動等に対する助成

内容●県内の貴重な自然地、野生動物、自然景観等の保護および自然とのふれあい活動など、環境の保全のために活動している団体に対し、助成を実施します。  
 申請書受付期間●7月14日(月)~7月23日(水) 9:30~16:00  
 申請書提出先●〒520-0807 大津市松本一丁目2番1号(大津合同庁舎6階)  
 財団法人淡海環境保全財団事務局  
 【問】財団法人淡海環境保全財団事務局(担当:片桐・田井中)  
 TEL:077-524-7168  
 FAX:077-524-7178

### 三井住友海上福祉財団 2003年度研究助成

対象●(1)交通安全関係:交通事故の防止、被害軽減ならびに被害者に対する医療に関して、交通環境・車両・人間についての個人またはグループによる主として自然科学系統の研究。  
 (2)高齢者関係:高齢者に関する医療・保健・福祉についての、個人またはグループによる主として自然科学系統の研究。  
 応募期限●7月22日(火) 必着  
 【問】財団法人 三井住友海上福祉財団 助成係  
 住所:〒163-0268 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル5階  
 TEL:03-3347-2853  
 FAX:03-3347-2854  
 e-mail:fukushi-zaidan@ms-ins.com  
 URL:http://www.ms-ins.com/welfare/

### 伊藤忠記念財団 平成15年年度 子ども文庫助成事業

対象●子ども文庫をはじめ、その連合体(子ども文庫連絡会)など、児童の読書について啓発・指導を行なっている民間団体、または個人の活動とする。対象事業は、「図書の購入・充実」を優先する。  
 応募締切●7月25日(金) 必着  
 【問】財団法人伊藤忠記念財団 助成事業部 子ども文庫助成担当  
 住所:〒173-0035 東京都板橋区大谷口2-3-6  
 TEL:03-3974-2650  
 FAX:03-3974-2049  
 e-mail:info@itc-zaidan.or.jp  
 URL:http://www.itc-zaidan.or.jp



## おうみNPO活動基金助成事業のスケジュールが決まりました。

昨年度より創設された、おうみNPO活動基金助成事業の今年度の募集スケジュールが決まりました。

募集要項など今後の詳細につきましては、センターホームページなどで改めてお知らせ致します。

- 第7回サポート委員会…7月18日(金) 18時～
- 募集…9月1日(月)～10月15日(水)
- 中間報告会兼募集説明会…9月21日(日)
- 第1次審査・継続書類審査…11月15日(土)
- 第2次審査、プレゼンテーション…12月7日(日)
- 成果発表会兼マネジメント講座…2月29日(日)

## おうみ市民活動屋台村を開催します。

市民活動やNPOの情報を広く紹介することにより、市民活動やNPOに対する理解を深め、こうした活動への参加の気運を盛り上げるとともに、市民団体間の交流を深めることを目的に、10月4日(土)、5日(日)の両日、滋賀県立県民交流センター(ピアザ淡海内)を会場に、「おうみ市民活動屋台村」を開催します。

詳細は次号でお伝えします。

## 編集後記

安全でおいしいものが食べられれば、というのは万人の願いである。時代を逆に戻そうというのではない。自然の摂理をもう一度顧みよう、というのである。

(編集ボランティア 森口)

行けども行けども山が狭く針畑。冬の豪雪祭りでは大きなまくらを遣り、雪溶けの水がやがて琵琶湖へと流れ、多くの人々を潤すことに感謝を込めて「どんと」を燃やすのだそうです。恩恵を受ける下流に住む人こそが参加するべきお祭りです。山に感謝、自然に感謝。

(編集ボランティア・松井)

障害者地域生活支援の「じゅぶ」さんを取材。「自立生活トレーニングの中で」自分は何が出来て、何を頼まなければならないか「を本人が見つかるまで」というお話を、ジェンダー問題に直面している身としては私自身の自立の問題として、二人の息子を育てる身としては、ヘルパーの立場の「何をまかせて、何をヘルプするか」という課題として聞き入ってしまいました。自立のユニバーサルデザインがここにある！と思ったのでした。

(編集ボランティア 石川)

## スタッフ紹介

淡海ネットワークセンターに来て2ヶ月余を経過しました。その間、理事会や評議員会のほか財団の運営会議や未来塾の運営委員会、基金のサポート委員会などが開催され、ネットワークセンターの運営もいろんな方々の支援で成り立っていることを実感しました。また、何人かの市民活動・NPO活動をされている方も出会わせていただきました。皆さん頑張っている！でも気負わずに、そんな雰囲気がいいですね。これから出来るだけ現場にも出かけていきたいと思っています。

(事務局長 竹岡久雄)



## おうみネット読者アンケート集計結果(回答数:20)

### (1) oughみネットの入手先

ダイレクトメール:17人 図書館:2人  
その他:1人

### (2) リニューアルした誌面の印象

前より良くなった:10人 前と変わらない:2人  
前の方が良かった:2人 初めて見た:2人

### ◎前より良くなった理由

・巻頭アンケート、表紙に親しみを感じる・情報が整理されて、読みやすくわかりやすい・アンケートが興味深く、いい企画だと思う・行事案内が巻末にあって見やすい・見やすくなって中身が増えた感じ イラストもかわいい・レイアウトなど統一感があり、見やすくなった。ページ割りもよくなった。など。

### ◎前の方が良かった理由

・NPO情報誌というより、タウン誌みたい。なんの冊子かぱっと見てはつきりしない・イベントよりも小さなボランティアをもっとのせてほしい。

### (3) 今後取り上げてほしいテーマやNPO・市民活動団体

・企業との協働について。

・滋賀は環境県といわれるので環境に関係することをより多く収録してほしいか。  
・地方からの市民活動の展開についてなど。  
・NPOが関わるPF事業。  
・NPOの事業化ノウハウ、法律問題。  
・バイオマスエネルギーとNPO。  
・行政支援とNPOの自立。  
・NPOと地縁団体との関係(具体的な動きがあれば)。  
・イギリスのチャリティ、アメリカのNPO。  
・ジェンダー、人権、相談(カウンセリング)など。

### (4) 「oughみネット」「淡海ネットワークセンター」へのご意見、ご提案

・情報BOXに最新映画情報なども入れてほしい。  
・県外の知人からはNPOに関する事柄を聞くことが多いのですが、県内の方からは一向に…皆さん関心が薄いのでしょうか?  
・巻頭アンケートの内容について募集してみたらいいと思います。  
・メンタル的なことが多いので、もっと枠を広げていろんな障害についてのせてほしい。

## 9月号のアンケート



アンケートにご回答いただけるかたは、性別・年齢をご記入のうえ、ハガキ、ファックス、または電子メールで、下記までご送付ください。住所・氏名をご記入いただいた方には抽選で粗品をプレゼントいたします。

Q1/高齢者になったとき一番不安なことは何だと思えますか?

a.お金 b.健康 c.人間関係 d.福祉サービス e.その他

Q2/高齢者にとって一番の生きがいは何だと思えますか?

a.家族 b.友人 c.趣味 d.スポーツ e.ボランティア f.その他

Q3/高齢者がイキイキするために、一番充実すべき条件は?

a.年金 b.働く場 c.医療や福祉 d.NPO等のボランティア e.その他

Q4/2025年に日本は高齢化のピークを迎えます。

その時日本の福祉の状況は?

a.充実している b.今と変わらない c.大幅に悪化

Q5/もし、あなたが知事なら、高齢者がイキイキするためには、何が必要だと思いますか?どんな政策を打ち出しますか?

## お詫びと訂正

oughみネット35号の「きらりインタビュー」CAPひまわり座の連絡先の住所・電話番号に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

CAPひまわり座の連絡先  
〒525-8799  
草津郵便局私書箱20号  
TEL:090-3611-9678

## 淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

- TEL 520-0801 大津市におの浜1-1-20
- TEL 077-524-8440 FAX 077-524-8442
- http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net
- E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29~1/3を除く)  
火~金曜日/9:00~19:00 土・日曜日、祝日/9:00~17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「oughみネット」は次のところに配布しています。  
・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津コミュニティ支援センター、県社福協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さくらホール、滋賀銀行、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など

